



遊歩道に倒木した樹木の状況を確認しています

# 青森市議会だより

第2回 定例会の報告 (令和8年5月29日～6月25日)

青森市議会議員  
自民クラブ

柿崎 孝治



事務所：〒038-0058 青森市羽白野木和104-4 電話番号：017-752-9264 FAX：017-718-5675 携帯番号：090-4887-1907

## 野木和公園について

近年は「あおもり桜マラソン」のスタート地点として国内外からランナーが訪れ、ソメイヨシノが咲き誇るスタート地点として広く認知されるようになってきました。2年連続となる令和7年度の昨冬の豪雪では、スタート地点の桜の上部の枝折れに加え、桜のトンネルを形づくる桜の倒木や、選手受付側にある桜の倒木も発生し、ソメイヨシノが大きな被害を受けました。雪解けが進み園内を一周してみると、松の倒木が各所で確認されました。とくに、ふるさとの森エリアから林間散策園エリアにかかる「幸運橋」から「見返り橋」にかけては、野木和湖側および山側の遊歩道で倒木が著しく、多数の倒木が遊歩道をふさいでいました。このため、指定管理者に依頼し、当該区間を立入禁止としていただきました。また、八重桜のスポットとして近年脚光を浴びてきた水辺散策園でも、八重桜の枝折れや幹の割れが見られました。合計180本の八重桜のうち85本が著しい被害を受け、これまでとは違った風景となりました。

Q

昨冬(令和7年度)の豪雪による野木和公園の被害状況と対応についてお示ください。

A

昨冬の豪雪による被害状況は、樹木については松20本の倒木、桜9本・松1本の計10本の幹折れ、桜や松など約160本の枝折れが発生しています。施設の被害状況については、主なものとしてウッドデッキ、案内板、東屋の屋根が積雪により破損しています。被害額としては、樹木関連が約190万円、施設関連が約90万円となっています。被害があった樹木については、湖に倒木し未対応となっている5本を除き、油川コミュニティ協議会が主催し行われた枝払いボランティア活動のほか、指定管理者による倒木処理や伐採・剪定の対応がなされました。なお、今年度は野木和公園の利便性向上を図るべく、寄付金を活用したベンチ及びトイレの修繕等を行う予定としており、それにかかる予算を計上し、今定例会に上程しています。

Q

2026あおもり桜マラソンの全参加者数と、そのうち県外および海外からの参加者数をお示ください。  
また、野木和公園で活動した運営スタッフの人数についてもお示ください。

A

今年の大会には、北は北海道から南は沖縄まで広く全国から参加いただいたほか、海外からは、ヨーロッパや南米など過去最多となる21ヵ国から参加をいただき、参加者数は4,927人となりました。県外及び海外からの参加者数は、県外から2,347人、海外から275人、合わせて2,622人。スタート会場運営スタッフは、ボランティアが120名、市職員が44名のほか、青森陸上競技協会等の競技運営スタッフを含め約200名でした。

Q

野木和公園「青森春まつり」の来園者数および客層については、ここ数年で変化が見られます。来園者からは、露店がないことへの驚きの声が多く聞かれました。野木和公園における露店は、地元油川地区の事業者が数件出店していましたが、高齢化等により年々減少し、本年度は露店の出店がゼロとなりました。本年度は観光課によりキッチンカーの手配が行われ、まつり期間中は必ず1台が出店する体制が確保されていました。質問いたします。今年度の野木和公園における「2026青森春まつり」の来園者数及びキッチンカーの出店状況をお示ください。

A

野木和公園における青森春まつりは、本市や油川観光協会などで構成する実行委員会主催により、4月21日から29日までの9日間の会期で開催され、来園者数は、昨年より約1,100人多い6,280人となっています。また、今年度から新たな取組として、会場内にキッチンカーを配置し、期間中延べ22台が出店しました。

要望

来園者数は昨年より約1,100人増加しており、要因は複数考えられますが、とりわけ外国人来園者が着実に増加しています。今後の青森春まつりは、外国人来園者への対応についても検討を進める必要があると考えます。

要望

ふるさとの森の「遊歩道入口」から「湖上大橋」までの区間は、以前から水はけが悪く、降雨後にはぬかるみがひどくなるなど、安全かつ快適な通行が妨げられている状況です。利用者からは「いつ整備されるのか」「このままでは歩きにくい」という苦情や不安の声が、毎年のように寄せられています。県外や海外からの来園者も増加しています。観光振興や地域のイメージ向上の観点からも、主要動線である当該遊歩道の環境整備は喫緊の課題と考えます。つきましては、利用者の安全確保と快適な環境づくり、さらには観光・交流人口の拡大という観点からも、当該年度内において、遊歩道の水はけ改善を含む改修工事など、何らかの具体的な措置を講じていただきますよう、強く要望いたします。



湖上大橋前でポーズをとる外国人

## 水道管の老朽化について

Q

わが国では、高度経済成長期に整備された水道管の老朽化が深刻化しており、老朽化による漏水や破裂事故は、現在も年間2万件以上発生、全国の自治体にとって大きな財政負担となり、持続可能な水道事業の運営が大きな課題となっています。令和7年11月10日午前、役所に向かう途中、国道280号の油川字岡田地区において、老朽化した水道管の漏水事故が発生し、この事故により、約300世帯で断水や、給水圧の低下による「水が出にくい」などの被害が生じたと伺っております。水道部では直ちに緊急調査を行い、周辺の安全確認と応急対応にあたってくださいました。町会長からも、「大変スピード感のある対応で助かった」と感謝の声が寄せられております。水道部はその後、国道280号の約1.5キロメートルの区間で緊急の漏水調査を実施し、周辺の安全確保を図るとともに、今後の老朽管対策を進めていく方針を示しています。それでは質疑いたします。緊急の漏水調査を実施した水道管更新の計画と契約金額についてお示ください。

A

令和8年度は、配水管整備事業として、1万3千420メートルの老朽管布設替えを行うほか、基幹配水管耐震化事業として、895メートルの基幹管路の耐震化を行うこととしています。このほか、今年度から新たに、緊急漏水対策事業として、お尋ねの配水管更新工事を行うこととしたもの。  
この事業は、昨年11月に油川地区の国道280号で、昭和40年度に布設した口径350ミリメートルのダクタイル鋳鉄管から漏水したことを契機に、漏水事故による市民生活への影響を最小限に抑えるため、配水管のうち、緊急輸送道路下にある、大規模な漏水事故の可能性が高い管について更新するものです。工事区間は国道280号の天田内川に架かる大浜橋から東側に402メートルの区間となり、工期は令和8年5月16日から令和9年3月19日まで、契約金額は、1億4千562万7千445円となっています。施工内容は、昭和40年度に布設された古いダクタイル鋳鉄管を、最新の耐震管であるGX形ダクタイル鋳鉄管に更新するものとなっています。

Q

油川地区の国道280号(新田～油川間)配水管更新工事の今後の予定をお示ください。

A

今年度施工する402メートルを含め、順次更新することとしており、令和11年度の完了を目指しています。



工事お知らせの案内板

## 青森市職員について

Q

本市を取り巻く社会環境が大きく変化し、市職員の業務量も増加していると思いますが、職員が前向きに仕事に取り組み、ワーク・ライフ・バランスを保つ職場環境づくりのための市の取組をお示ください。

A

急速に進む人口減少や少子高齢化に加え、社会環境の大きな変化に伴い、業務量が増加する中、職員の働き方の意識にも変化が生じてきており、全ての職員の心身の健康の保持やワーク・ライフ・バランスの推進、加えて職員が前向きに仕事に取り組むことができる働きやすい職場環境づくりが必要と考えています。職員の心身の健康保持やワーク・ライフ・バランスを推進する観点から、(1)各課における月1回のノー残業デーの実施 (2)年次有給休暇の取得目標と、その取得の促進 (3)柔軟な働き方を実現するテレワークの活用 (4)各ライフステージにおける休暇・休業制度の活用 (5)メンタルヘルスチェック等による職員の健康状態の確認や産業医面談の実施 (6)時間外勤務の上限時間等の設定及び時間外勤務の縮減の強化と労務管理の徹底などに取り組んでいます。また、職員が前向きに仕事に取り組むことができる職場環境づくりのため、○主体的かつ積極的に挑戦する人材の育成と褒める組織風土を醸成するための「職員表彰制度」○「職員申告書」による職務の満足度や希望配属先などを踏まえた適材適所の人員配置などにも取り組んでいます。本市としては、今後においても、これらの取組を継続し、職員の心身の健康保持とワーク・ライフ・バランスの推進を図るとともに、職員が伸び伸びと能力を発揮し、前向きに仕事に取り組むことができる働きやすい職場環境づくりに努めてまいります。

Q

豪雪期には、その対応のために多くの職員が時間外勤務を行い、業務にあたっていることを確認しております。雪対策室の職員については、NHKのニュースを通じて具体的な時間外勤務の状況を知り、その多さに驚きました。業務が一人の職員や特定の職員に集中することのないよう、所属長が担当職員の業務状況を把握し、適切に調整することが重要です。忙しい状況においても、一人の職員や特定の職員に業務が偏在しないよう、業務管理体制を整えることが大切であると考えますが、市のお考えをお示ください。

A

一人の職員が仕事を抱え込まないよう、職員間のコミュニケーションの活性化を図り、風通しの良い職場環境となるよう取り組んでいるとともに、各部局において、適宜、業務手順を点検・改善し、適正な業務管理体制を確保するよう、全庁的に働きかけています。

要望

青森市と市民との窓口となっている町会の衰退が急速に進んでいると感じています。市内でも、町会長や役員の担い手が見つからず、解散した町会が2町会あると聞いています。このままでは、現在も課題となっている「除排雪や災害対応」などが十分に行えなくなるおそれがあります。引き続き、地域活動への積極的な参加の呼び掛けをお願いしたいと思います。

## 空き家等に関する問題について

人口減少と高齢化、相続による「実家」の空き家化、相続人同士の共有名義や再建築不可物件の存在など、法制度や権利関係の複雑化により、空き家は年々増加しています。油川中学校区学校運営協議会で、6年生の児童と話し合う機会がありました。今気になっていることとして「空き家」が挙げられ、「どうにかしてほしい」という要望も聞かれました。令和8年度第1回青森市子ども会議でも、子ども会議委員から「空き家」に関する発言があり、子どもたちの間でも身近な問題として捉えられていることが分かりました。

Q

適切な管理が行われていない空き家の屋根や窓ガラスの部材が飛散しそうな場合、市はどのように対応しているかお示ください。

A

相談があった場合、現地調査を行い、調査により判明した所有者等へ、空き家等が及ぼしている問題を認識していただくため、現況写真とともに適正管理の依頼文書を送付しています。必要に応じて消防と連携した危険排除や、「青森市空家等の適切な管理に関する条例」に基づき、必要に応じて本市が最低限度の緊急安全措置を講じ、危険な状態の回避を行っています。緊急安全措置として想定される措置は、倒壊等により道路等へ倒れかけている建築部材の撤去、歩道に散らばった窓ガラスの撤去、割れた窓をコンパネ等で塞ぐ等、職員による軽微な作業を行っているが、職員による対応が困難な大掛かりな作業の場合は、業者への委託による作業も行っています。

要望

空き家問題は、相続や登記、固定資産税等の税制、建物の老朽化に伴う安全性の確保、売買・賃貸等の不動産取引、見守りや地域福祉など、多岐にわたる分野が複雑に絡み合う課題です。市民にとって「最初にどこへ相談すればよいのか」が極めて分かりにくい状況にあります。その結果、民生委員や町内会長が空き家に関するあらゆる相談の「とりあえずの窓口」とみなされ、調整役として過度な負担を強いられている実態があります。空き家問題に関する市民の「最初の相談先」を明確化するとともに、地域の担い手に過度な負担が集中しないような体制整備を進めていただきますよう要望いたします。

## ホタテガイについて

Q

現状陸奥湾の水温は高めようですが、令和7年のホタテガイ高水温被害に対する令和8年度の本市の取組をお示ください。また、サステナブル漁業構築モデル事業の具体的な取組内容をお示ください。

A

【令和8年度に実施する高水温被害に対する取組】・本市では、各漁業協同組合及び漁業者等と協力しながら、ホタテガイ生産の回復及び漁業活動の継続に向けた取組を進めるため、令和8年度において、○ホタテガイの安定採苗に向け、親貝となるホタテガイ半成貝の地まき放流を支援する「ホタテガイ母貝確保対策事業」○ホタテガイ養殖の再生に取り組む中、物価高騰の影響を受けている漁業者へ生産資材費等を支援する「漁業活動継続支援事業」○ホタテガイの不作、単価安及び自然災害等による生産金額の減少を補てんする制度への加入を継続し、漁業経営の安定を図るため、各漁業者が負担する共済掛金を支援する「特定養殖共済掛金補助事業」○高水温等の影響に左右されにくい生産体制づくりを進めるため、新たな養殖魚種の導入試験等を支援する「環境変化に強い漁業生産体制構築事業」○高水温下における持続可能なホタテガイ生産体制を再構築するため、水中ドローン等を活用したホタテガイの生育分布調査を支援する「サステナブル漁業構築モデル事業」を実施しているところであります。サステナブル漁業構築モデル事業については、持続可能なホタテガイ生産体制を再構築するため、漁業協同組合が行う水中ドローン等を活用したホタテガイの生育分布調査等を支援するものであります。・具体的には、「ホタテガイ母貝確保対策事業」による地まき放流や自然繁殖によるホタテガイについて、水中ドローンを用いて、生育分布や海底環境の状況を調査し、ホタテガイ養殖の再生に活用することとしており、調査時期や地点等について、現在調整を行っているところであります。

要望

水中ドローンを用いて調査される場合には、報道関係の取材を積極的に受けていただくとともに、多くの漁業者にも当該取組の内容が十分に伝わるよう、ご配慮くださいますようお願いいたします。現在のように、陸奥湾におけるラーバの発生が少なく、稚貝の採取が困難な状況が今後も続いた場合には、むつ湾振興会で定めたガイドラインに沿って、青森市漁協および後潟漁協においてルールを決定したうえで、平内町漁協の例にならい、北海道からの移入を検討せざるを得ないと考えます。その際には、必要な手続きおよび体制整備に関しまして、ご支援をお願いいたします。青森県の養殖業は、そのほとんどが陸奥湾のホタテガイで占められており、県の水産業を支える大きな柱となっています。西市長、青森市は平内町に次いで多くの水揚げがある自治体であり、陸奥湾のホタテ養殖において重要な役割を担っています。陸奥湾ホタテ養殖は、加工・流通・輸出・観光にもつながる、本県の「基幹産業」です。今後とも、青森県および関係市町村と連携しつつ、国への支援要請や、漁業者・加工業者への支援にお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。



ラーバは見当たらずムラサキ貝が目立つ

## 青森市天然記念物シナイモツゴについて

Q

青森市の天然記念物「又八沼に生息するシナイモツゴ」は、日本固有の淡水魚シナイモツゴの大切な生息地として保護されています。令和2年、この又八沼から、本来青森県にはいない外来系統のモツゴが見つかり、交雑によってシナイモツゴが絶滅するおそれがあることが分かりました。令和5年8月には、淡水魚の専門家が中心となり「又八沼の水抜きプロジェクト」が実施されました。現在も、天然記念物指定に尽力されたシナイモツゴを守る会の顧問で弘前大学名誉教授の佐原雄二先生、現青森中央高校の高谷悟先生を中心に、生息状況の把握を目的とした生物調査、産卵状況の確認、外来種の有無などの調査が行われるとともに、油川小・中学校の児童生徒、青森北高校の生徒、油川地区の町民の皆さんを対象とした環境学習が実施されています。おたずねいたします。青森市天然記念物「又八沼に生息するシナイモツゴ」の現在の回復状況についてお示ください。

A

シナイモツゴは、全国的に絶滅が危惧される希少な淡水魚で、本市が自然分布の北限と考えられており、生物学的な価値のみならず、かつては、地元住民に「沼チカ」と呼ばれて食されるなど、地域における歴史的な価値が高いことから、平成12年10月、「又八沼に生息するシナイモツゴ」として、青森市指定文化財の天然記念物に指定されました。令和6年5月に、青森中央高校の人工池でシナイモツゴの産卵が多数確認され、同年10月には、孵化した稚魚のうち、約100匹が又八沼に放流されました。その後、又八沼ではモツゴは確認されておらず、又八沼に放流されたシナイモツゴの個体が着実に繁殖していることが確認されています。教育委員会としては、引き続きシナイモツゴを守る会等が行っている保護活動に協力してまいります。



又八沼のシナイモツゴ

意見

青森市の天然記念物は、地域の生活空間の中にあるものが多く、地元の人びとの理解と協力が欠かせません。天然記念物の指定をめざして思いを込め、一生懸命取り組まれた方がいなくなると、継承されずに失われてしまうおそれがあります。その思いを次の世代につなげていけるよう、微力ではありますが、今後も継承に向けた協力を努めていきたいと考えています。